

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

出会い

平成28年4月第2週放送

桜が咲き、新年度を迎えて出会いの季節がやってまいりました。新たに出会った人と一緒に、今までとは違った環境で勉強や仕事に励まれる方もいらっしゃることでしょう。人との出会いは、物の見方や考え方を広げ、人生に深みをもたらします。時には気持ちをぶつけ合うこともあるでしょうが、お互いの違いを尊重し合うきっかけにもなります。そうして人は成長して行くのです。

例えば、あの人とは合わないなと感じた時、その人は自分が持っていないものを持ちあわせていることに気付かされることもあります。お互いの物差しの違いともいえるでしょうか。

仏教で「出会い」といいますと、「お釈迦さま」「その教え」「支えあう仲間」という、三つの宝、「三宝」との出会いが最も尊く、有り難いものだと説かれます。

そして、「三宝」を自らの依り処として、おさとりの道を歩むことが修行です。その修行の道を歩む上で、その道しるべを示して下さるのが、師匠です。それには、道を探し求めようとする志、つまり「求道心」がなければ師と仰ぐ人にはなかなか出会えません。

道元禅師も、出家をしてからすぐに師匠である如浄禅師と出会ったわけではありませんでした。比叡山や建仁寺で修行を積み、今の中国、宋の国に渡ってからも、阿育王山や天童山など多くのお寺を何年もかけて訪ね歩き、ようやく師匠と呼べる如浄禅師に出会うことができたのです。

こうして遍歴を重ねることは、古い經典に説かれていることでもあります。

お釈迦さまのおさとのりの世界を説いた、『華嚴経』『入法界品』には、文殊菩薩の勧めで、善財童子という少年が、菩薩・神・出家者・遊女・子どもなど、五十三人に教えを訪ね、最後に普賢菩薩のもとで真実の教えに目覚めるという出会いの物語があります。

それぞれの教えを信じながらも、時には湧き上がる迷いや疑問を持ちながら、自らの心と向かい合い修行の旅を進める姿は、さまざまな人と出会う、私たちの生き方にも重なるものがあるでしょう。

異性の方との出会いがない、良い人がいればという悩みを抱えている方は、相手との共通点のみを良い相性と信じて相手を探しているのかも知れません。また、さ

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

まざまなことに挑戦をしても生きがいが見つからない方は、自分とは違う視点を持つ人のアドバイスの大切さに気付いていない場合もあります。

一概いちがいに決めつけることはできませんが、道元どうげん禅師の修行や善財ぜんざい童子の物語は、出会いのヒントを私たちに教えてくださっているような気がします。

一度きりの人生です。新しい人との出会いにおく臆する事なく、多くの人からたくさんおんのことを学んでいきたいものです。

— 終 —